

論文

中・日・英三カ国語における移動表現の 対照研究¹

劉 傑

山東科技大学外国語学院講師

仲 娜娜

山東科技大学外国語学院修士課程

A Comparative Study of Motion Events in Chinese, Japanese, and English

LIU Jie, ZHONG Nana

Abstract: Based on the “path” features of motion events, languages in the world can be in different types, such as satellite-framed languages and verb-framed languages. This paper examines the similarities and differences between Chinese, Japanese, and English in expressing subject motion events and object motion events from the perspective of path encoding. Through the study, it is found that Chinese pure path verbs can only express autonomous subject motion events, which is a major feature that distinguishes it from Japanese and English. Whether it is subject motion events or object motion events, Japanese uses path verbs more frequently than Chinese and English, and Chinese and English use manner verbs more often. In object motion events, Chinese can use expressions such as “(捡起)来” to indicate the spatial motion of an object approaching the subject, but in this situation, Japanese and English cannot express the concept of “来”.

Keywords: motion events, path, subject motion, object motion

1 はじめに

人や物の移動を表す表現は、どの言語にも存在する。移動事象には、移動物 (Figure)、移動の経路 (Path)、経路に関わる参照物 (Ground)、移動の様態 (Manner) などの概念が含まれ (Talmy1985; 吉成祐子・眞野美穂・江口清子・松本曜2021)、Talmy (1991, 2000) は、経路がどのような表現形式によって表現されるかに注目して、世界の言語を「付随要素枠付け言語

(satellite-framed language)」と「動詞枠付け言語 (verb-framed language)」に分類している。「付随要素枠付け言語」とは、英語のように経路が動詞に付随する要素（例えば不変化詞）で表される言語のことであり、「動詞枠付け言語」とは、スペイン語や日本語のように経路が動詞で表される言語のことである。その後、Slobin (2004) は、タイ語などにおける様々な経路が同じ立場の動詞で表される表現形式に注目し、タイ語のような言語を「均等枠付け言語 (equipollently-framed language)」としている。

このように、移動動詞は、移動の事実を表現するが、そのほかに様態や経路位置関係などを同時に表現することが多い(田中・松本1997)。Talmy(1985)や田中・松本(1997)などでは、様態、経路位置関係などが移動の事実とともに一つの動詞に包入されていることを移動動詞の語彙化としている。英語における移動動詞の特徴は、一般に移動の様態が移動動詞に包入され、移動の経路が前置詞句か副詞句で表現されるというところにある(田中・松本1997: 130-134)が、日本語の移動動詞の基本パターンは、移動の経路の方向性や経路位置関係を動詞に包入するものであり、移動の様態は後置詞句、副詞句、テ形動詞による副詞句によって表されている(田中・松本1997: 141-142)。

(1) The boy slid down into the pool in just a few seconds.

(田中・松本1997: 128)

(2) 彼は {意気揚々と／車で／歩いて} 川を渡った。

(田中・松本1997: 141)

中国語では、移動事象をどのように表現するかについて、これまでいろいろ研究されてきた(曾传禄2009; 范立珂2016; Christine LAMARRE 2017など)。しかし、中国語はどの類に属するかについては見解が分かれている(沈家煊2003; 阚哲华2010; 吴建伟・潘艳艳2017)。これは、中国語と日本語・英語の間に大まかな違いがあることが分かっているが、具体的にどのように異なるか十分把握できていないためである。これまでの研究では、中国語と英語との対照研究(范娜2014; 骆荣2018など)、日本語と英語との対照研究(田中・松本1997; 小原2007; 松本2017aなど)が多く、中日英三カ国語の対照研究は管見の限り、吴建伟・潘燕燕(2017)だけであった。吴建伟・潘燕燕(2017)は、主として移動動詞の組み合わせに注目し、類型論的に中・日・

英三カ国語の移動事象を論じたものであり、三カ国語の詳細な違いが明らかにされていないと思われる。そこで、本稿では、中・日・英三カ国語において移動事象がどのように表現されるかを考察し、その共通点と相違点を明らかにし、移動表現の研究に貢献したい。

2 研究方法

本稿では、基本的に松本（2017a）に従って経路概念を捉える。松本（2017a：17）によれば、経路は、経路局面、位置関係、方向などの諸要素からなる。経路局面とは、出発、到着などの移動の局面に対応する経路部分を指し、起点、通過点または通過領域、着点の三つがある。位置関係とは、内部か、表面か、上かなどのように、参照物に対してどの位置にあるかを示す。方向については、国立国語研究所（1972）、松本（2017）、Christine LAMARRE（2017）において指摘されているように、方向には〈上下〉〈内外〉〈左右〉〈前後〉〈元にもドル〉〈チカヅク〉〈トオザカル〉〈回ル〉〈イク／クル〉というようなものがあり、本稿はそれに従う。

そして、本稿では移動事象を主体移動と客体移動に分けて考察するが、主体が移動する際の様態あるいは手段を表す移動動詞を「様態動詞」、「投げる」のような主体動作／客体移動を表す移動動詞を「使役移動動詞」、移動の経路を表す動詞を「経路動詞」と呼ぶ。経路動詞には、「行く／来る」のような話者を参照点とする直示移動動詞、「上がる／入る」のような話者以外のものを参照点とする非直示移動動詞があり、本稿では従来の研究にしたがってそれを区別する。

本稿で対照研究の手掛かりとして利用する用例は英語圏の国だけでなく、中国と日本でも馴染みのある『グリム童話』を対象に、その中の「かえるの王さま」「赤ずきん」「ホレばあさん」「十二人の狩人」から収集したものであり、出典は英語の例文の後に物語名で示す。本稿では、中国語・日本語・英語において、移動事象の経路要素をいかに表現するかを考察する。そのため、中国語・日本語・英語のいずれも表現される場面に絞って用例を収集することにした。ただし、同じ事柄を描写する場面でも、移動事象として表現しないことがある。例えば、次の用例（3）では、下線部の表現は同じ事柄を表すと思われるが、中国語と日本語のどちらでも移動表現が使われ、英語では移動を表さない“have”が使われている。このような場合は、英語で使われて

いる表現は移動事象を表すものではないため、英語の用例はもちろん、それに対応する中国語・日本語の用例も本稿の考察対象から外す。ただし、用例(4)のように、中国語と英語の物語では“走进…”“went into”、日本語では「帰りました」と、同じ移動事象を意味の異なる動詞で表現する場合があるが、いずれも移動動詞が使われているため、それを考察対象とする。

(3) 中：就取出一只金球，把金球抛向空中，然后再用手接住。

日：お姫さまは金の玉を取り出して、それを高く投げあげては、落ちてくるのをつかまえて、遊ぶのでした。

英：Now she had a golden ball in her hand, which was her favourite plaything; and she was always tossing it up into the air, and catching it again as it fell. (「かえるの王さま」)

(4) 中：她走进继母的房间，因为浑身上下粘满了金子，继母和妹妹亲热地接待了她。

日：そこでお母さんのところへ帰りましたが、金で覆われて帰ってきたので、大切に迎えられました。

英：Then she went in to her mother and sister, and as she was so richly covered with gold, they gave her a warm welcome.

(「ホレばあさん」)

3 考察

上述の手順を踏まえて、グリム童話の四つの物語から移動事象を表す表現を抽出した結果、次の表1に示すように、中国語と日本語の移動表現はそれぞれ70例、英語の移動表現は68例あった。英語の移動表現が2例少なかった

表1：移動事象の表現方法

表現方法 言語	主体移動表現		客体移動表現			合計
	様態・手段 +経路	経路のみ	使役手段 +経路	経路のみ	その他	
中国語	31 (44.3%)	13 (18.6%)	26 (37.1%)	0 (0%)	0 (0%)	70 (100%)
日本語	11 (15.7%)	33 (47.1%)	13 (18.6%)	10 (14.3%)	3 (4.3%)	70 (100%)
英語	23 (33.8%)	19 (27.9%)	16 (23.5%)	5 (7.4%)	5 (7.4%)	68 (100%)

のは、英語では用例（5）のように、一つの動詞と複数の前置詞を組み合わせることで複数の経路を表現することができるからである。

(5) 中：它从屋顶上滑了下来，正好落在大石槽中，淹死了。

日：(前略) ずるずると屋根から滑り落ちて、ちょうどあの大きな桶に落ちてしまい、溺れ死んでしまいました。

英：(前略) slipped down from the roof straight into the great trough, and was drowned. (「赤ずきん」)

用例（5）では、動詞“slip”は移動の様態、不変化詞“down”は移動の方向、前置詞“from”は起点、前置詞“into”は移動の方向と位置関係を表す。これに対して、日本語でも中国語でも、二つの動詞フレーズ「屋根から滑り落ちる」と「桶に落ちる」を用いてそれぞれ“slipped down from the roof”と“slipped.....into the great trough”という主体移動事象を表す。客体移動事象においても、田中・松本（1997：157-158）が述べるように、英語では経路を複数の前置詞句の連続によって表現できるが、それに直接対応する日本語の客体移動表現が作りにくく、用例（6）で示すように複数の動詞句を用いて表現しなければならない。

(6) 英：Bill threw a ball out the window over the fence and across the street.

日：ビルはボールを窓から投げた。そのボールはフェンスを越え、通りを横切っていった。 (田中・松本1997：157-158)

表1から分かるように、主体移動表現では、中国語・日本語・英語のいずれも移動の様態と経路を組み合わせることで移動事象を表現することができるだけでなく、経路表現のみで用いられることもある。客体移動表現では、日本語と英語では、経路表現のみで客体移動を表現するのが見られるが、中国語の例には、そのような表現がなかったのである。これは、Christine LAMARRE (2017:97) でも指摘されているように、中国語では一般に経路動詞単独で客体移動を表現することができないためである。この点についてはまた後述する。以下では、まず主体移動を見てみたい。

3.1 主体移動の経路表現

3.1.1 方向性の表現パターン

中国語の“滑（滑る）”や“爬（這う／よじ登る）”は様態動詞であり、次の用例（7）と用例（8）に示すように、上から下へ移動することを表す際には経路補語“下”、中から外へ移動することを表す際には経路補語“出”を使わなければならない。日本語の様態動詞「滑る」と英語の様態動詞“slip”も、上から下へ移動することを表す際に、それぞれ「落ちる」「down」のような方向を表す表現と共に用いなければならない。

(7) 中：它从屋顶上滑了下来，正好落在大石槽中，淹死了。

日：（前略）ずるずると屋根から滑り落ちて、ちょうどあの大きな桶に落ちてしまい、溺れ死んでしまいました。

英：（前略）slipped down from the roof straight into the great trough, and was drowned.（「赤ずきん」）

(8) 中：我就答应了，可是我压根儿没有想到，他会从水潭里爬出来（後略）。

日：だけど、かえるが水から出てこられるなんて、思いもしなかったわ。

英：I told him that he should live with me here, thinking that he could never get out of the spring;（「かえるの王さま」）

中国語の“爬（這う／よじ登る）”は、“爬上…”“爬下…”から分かるように、上方向の経路補語と下方向の経路補語のどちらも共起することができる。それは、“爬”は様態動詞で、その意味に方向という概念が含まれていないためである。この点において、中国語の“落”や“掉”はそれと若干異なる。“落”や“掉”は用例（9）のように、上から下へ移動することを表す経路補語と共起できるのだが、“*落上（来）”²“*掉上（去）”が言えないように、下から上へ移動することを表す経路補語と共起できない。それは、“落（落ちる）”“掉（落ちる）”には上から下へ移動するという意味が包入され、下から上へ移動するということと意味的に矛盾するため、共に用いることができないのだと考えられる。ただし、Christine LAMARRE（2017：112—113）でも述べられているように、“掉”などの経路動詞は意味的に経路を表せても、経路補語と共起する際は、移動様態動詞が入るスロット（前項）に現れ、様態動詞と同様な働きを果たす。語彙の意味と文法機能の両方を考えると、

“掉”や“落”は、経路動詞の性質と様態動詞の性質の両方を持ち合わせていると言えよう。本稿では、その文法機能を重視し、“掉”や“落”のような動詞を「様態兼経路動詞」と呼び、様態動詞の一類とする。便宜上、前述の“滑(滑る)”のような動詞を「典型的様態動詞」と呼ぶ。

(9) 中：于是，姑娘用力摇动果树，苹果雨点般纷纷落下，直到树上一个也不剩了，她才停下来。

日：そこで女の子は木を揺すりました。すると、りんごは雨が降るように落ちました。女の子はりんごが残らず、落ちてしまうまで木を揺すり、それから先へ行きました。

英：So she shook the tree, and the apples came falling down upon her like rain; but she continued shaking until there was not a single apple left upon it. (「ホレばあさん」)

英語の“fall”は、“to drop down from a higher level to a lower level”(牛津高阶英汉双解词典2017:741)という意味を表す。例えば、次の用例(10)と用例(11)のように、“fall”を用いて上から下へ移動することを表す。つまり、“fall”は、“down”と共起しなくても上から下へ移動することを表すことができ、その語彙的意味に方向性という概念が包入されている。したがって、田中・松本(1997:136)では、“fall”“rise”などを方向性の移動動詞として扱っている³。しかし、“fall”は、中国語の“落”“掉”と同じように、上から下へ移動することを表す“down”と共起でき、様態兼経路動詞の振る舞いを示す。このように、英語の“fall”“rise”は中国語の“落”“掉”と同様で、様態兼経路動詞に属する。

(10) September had come and the leaves were starting to fall.

(牛津高阶英汉双解词典2017:741)

(11) Several of the books had fallen onto the floor.

(牛津高阶英汉双解词典2017:741)

日本語では、「落ちる」といった動詞が上から下へ移動することを表し、中国語の“落”“掉”、英語の“fall”に相当する。しかし、「落ちる」は、中国語の“落”“掉”および英語の“fall”と異なり、「上から下へ移動する」ことを表す表現とともに用いることができない⁴。これは、「落ちる」には、「上から

下へ移動する」という方向の概念が完全に包入され、その方向性をさらにほかの付属語で明示する必要がないからである。

主体移動における経路の表現方法は、グリム童話の四つの物語から採集した語例を付けて示すと次の表2の通りである。

表2：主体移動事象における表現方法と語例⁹

表現方法 言語	様態＋経路		経路のみ	
	典型的様態＋経路	様態兼経路＋経路	直示	非直示
中国語	走进、飘进、跳进、 浮出、爬出、跳出、 滑下… (計25例)	掉进、潜入、落入、 落下… (計6例)	来、去 (計6例)	进、出、回、离开 (計7例)
日本語	走っていく、跳び出 す、滑り落ちる、 跳び上がる… (計11例)	なし	行く、来る (計10例)	落ちる、上がる、 沈む、出る、入る、 帰る、倒れる… (計23例)
英語	ran to、run away、 slipped down、hopped into、jumped in、rolled upon… (計18例)	falling down、fallen into、fall on… (計5例)	go、come、 came back、 go into… (計16例)	enter、reach、 pass (計3例)

表2から、次のようなことが分かる。まず、同じ主体移動事象を表しているにもかかわらず、中国語では「様態＋経路」で表現する頻度が多く、経路のみで表現するのが少ないのに対して、日本語では「経路のみ」で表現する頻度が多く、「様態＋経路」で表現するのが少ないのである。英語では、「経路のみ」で表現する頻度が多いように見えるが、それは直示移動動詞“go”“come”の使用頻度が多いためであり、非直示移動動詞の使用頻度が少ないのである。

また、中国語と英語の主体移動表現では、「様態兼経路＋経路」の表現方法があるが、日本語にはそのような表現方法が見られない。それは、日本語の経路動詞は、上下方向または内外方向という経路の概念を完全に包入したものであり、さらに別の動詞または不変化詞のようなものによってそのような方向を示す必要がないからだと思われる。

3.1.2 自律的主体移動と非自律的主体移動

主体移動事象には、主体が自らの力で移動するものと、外からの働きかけによって主体が移動するものがある。中国語では、例えば、次の用例に示すよう、「狼」や「かえる」が部屋の中に入るという主体移動を表現する際に、経路動詞“进（入る）”が使われている。一方、「金のまり」や「リンゴ」が落ちるといふ主体移動事象を表現する際には、“掉（様態兼経路動詞）+进（経路動詞）”“落（様態兼経路動詞）+下（経路動詞）”が使われ、経路動詞と経路動詞以外の動詞を組み合わせて使用する必要がある。“掉”“落”が使用されない用例（14）’と（15）’は不自然な中国語表現になる。

- (12) 中：猎人进了屋，来到床前时却发现躺在那里的竟是狼。
 日：そこで中に入り、ベッドの前になると、そこには獵師が長いことさがしていた狼が横になっていました。
 英：So he went into the room, and when he came to the bed, he saw that the wolf was lying in it. (「赤ずきん」)
- (13) 中：小公主走过去把门打开，青蛙蹦蹦跳跳地进了门，然后跟着小公主来到座位前
 日：お姫さまは王さまの言うとおりにしました。かえるは、びよんと中へ入ってくると、お姫さまのあとをペタペタついてきて、椅子のところまでやってきました。
 英：She did so, and the frog hopped into the room, and then straight on-tap, tap-plash, splash-from the bottom of the room to the top, till he came up close to the table where the princess sat.
 (「かえるの王さま」)
- (14) 中：我在这儿哭，是因为我的金球掉进水潭里去了。
 日：気味の悪いかえるね、おまえに何ができるっていうの。私の金のまりが泉の中に落ちてしまったのよ。
 英：what can you do for me, you nasty frog? My golden ball has fallen into the spring. (「かえるの王さま」)
- (14)’中：*我在这儿哭，是因为我的金球进水潭里去了。
- (15) 中：她回答道：“当然可以呀，可苹果落下来会砸着我的脑袋。”说完继续赶路。
 日：けれども醜い娘は答えました、「冗談じゃないわ。あたしの頭の上落っこちでもしたら、どうするのよ！」そう言うと、先へ歩いてきました。

- 英：But she only answered, ‘A nice thing to ask me to do, one of the apples might fall on my head,’ and passed on. (「ホレばあさん」)
 (15) 中：*她回答道：“当然可以呀，可苹果下来会砸着我的脑袋。”说完继续赶路。

曾传禄 (2009: 48–50) も、次の用例 (16) に基づいて、“(无生自移事件) 一般用复杂表达式，不用简单表达式 (筆者訳：無生物主体移動事象は、単純な表現形式を使用せず、複雑な表現形式で表現するのが一般的である)⁶”と指摘しているが、移動物が生物か無生物かまたそれに意志性があるかどうかという観点から、用例 (16) が表す主体移動事象を捉えている。

- (16) 岩浆从山上喷下来。(筆者訳：マグマが山頂から吹き出してきた)。
 *岩浆从山上下来。(曾传禄2009: 48)

本稿では、そのような移動表現が成立するかどうかには、移動物自身が移動するための力を持っているかどうかに関わるとし、人間、動物、交通機関、台風・月などが自力で移動する事象を「自律的主体移動事象」と呼ぶ。逆に、外部からの働きかけによって移動する事象を「非自律的主体移動事象」と呼ぶ⁷。無生物はもちろん、人間と動物が移動する事象でも、自らの力ではなく、外部からの働きかけによって移動するものなら、それも非自律的主体移動事象に入る。本稿で収集した用例から分かるように、自律的主体移動事象しか表せないのは、主として Christine LAMARRE (2017: 104–105) で述べられた基本スキーマ経路動詞である。基本スキーマ経路動詞とは、表3に示す通り、〈上下〉〈出入り〉〈元へモデル〉〈ワタル〉〈着点〉、そして直示移動の〈イク／クル〉を表すものであり、単独で移動事象を表すだけでなく、他の動詞に後接して経路補語としても使われる (Christine LAMARRE 2017; 刘月华1998 参照)。

表3：中国語における基本スキーマ経路動詞および日本語・英語との対応関係⁸

経路言語	上下移動		出入り		モデル	ワタル	着点	直示移動	
	上、起	下	進	出	回	过	到	来	去
中国語	上、起	下	進	出	回	过	到	来	去
日本語	上がる 上る	下がる 降りる	入る	出る	戻る 帰る	渡る 通る	着く	来る	行く
英語	up	down off	in	out	back	across through	reach	come	go

前出の用例 (12)～(16) から分かるように、基本スキーマ経路動詞を単独で用いる際、自律的主体移動事象しか表さない。また、次の用例 (17) のように、基本スキーマ経路動詞とそのうちの直示移動動詞 (去/来) を組み合わせる際も自律的主体移動事象を表す。用例 (16) は、非自律的主体移動事象であるため、基本スキーマ経路動詞“下”と直示移動動詞“来”を組み合わせた表現形式を用いることができないのである。

(17) 中：接着，奶奶也活着出来了，只是有点喘不过气来。

日：それから、おばあさんも生きて出て来ました。

英：and after that the aged grandmother came out alive also, but scarcely able to breathe. (「赤ずきん」)

自律的主体移動事象を表せるかどうかという観点から、移動動詞を分類すると、次の通りになる⁹。次のグループの語例から、中国語の基本スキーマ経路動詞は、単独で用いられる際にはもっぱら自律的主体移動を表すことと、様態動詞は自律的主体移動と非自律主体移動のいずれも表すことができるということが分かる。

I . 自律的主体移動のみを表す動詞

(ア) 経路動詞：

a. 基本スキーマ経路動詞：

上 (上がる、上る)、下 (下がる、降りる)、進 (入る)、出 (出る)、回 (戻る、返る)、过 (渡る、通る)、到 (着く)、来 (来る)、去 (行く)

b. その他の経路動詞：

靠近 (近づく)、进入 (入る)、登 (登る) など

(イ) 様態動詞：

a. 典型的様態動詞：

走（歩く）、跑（走る）、奔（駆ける）、跳（跳ぶ）、飞（飛ぶ）、爬（這う）、
冲（突き進む）、钻（もぐる）、驶（車などが走る）、踏（踏む）など

b. 様態兼経路動詞：

潜（もぐる）、升（昇る）、拐（曲がる）、转（回転する／回る）など

II. 非自律的主体移動のみを表す動詞

(ア) 経路動詞：

a. 基本スキーマ経路動詞：なし

b. その他の経路動詞：なし

(イ) 様態動詞：

a. 典型的様態動詞：

飘（舞う）、漂（漂う）、滑（滑る）、滚（ころころと転がる）、摔（転ぶ）など

b. 様態兼経路動詞：

掉（抜け落ちる／遺失）、坠（うっかりして落ちる）、沉（沈む）など

III. 両方表せる動詞

(ア) 経路動詞：

a. 基本スキーマ経路動詞：なし

b. その他の経路動詞：下降（降下する）、上升（上昇する）

(イ) 様態動詞：

a. 典型的様態動詞：なし

b. 様態兼経路動詞：

落（花などが落ちる／鳥が止まる）、浮（泳ぐ／浮かぶ）、倒（倒れる）
など

上述のように、自律的主体移動事象は、基本スキーマ経路動詞単独で（用例（18）と用例（19）’参照）または自律的主体移動を表す様態動詞と基本スキーマ経路動詞とを組み合わせる表現形式（用例（18）’と用例（19）参照）で表現することができるが、非自律的主体移動事象は、非自律的主体移動を表す様態動詞と基本スキーマ経路動詞を組み合わせる表現しなければならない。要するに、中国語では、移動事象において自らの力で移動するものかどうかが重要な概念要素である。それゆえに、主体移動事象を表現する際に、自律的主体移動であっても頻繁に移動様態動詞を使うのだと考えられる。

- (18) 中：猎人进了屋，来到床前时却发现躺在那里的竟是狼。
 日：そこで中に入り、ベッドの前になると、そこには猟師が長いことさがしていた狼が横になっていました。
 英：So he went into the room, and when he came to the bed, he saw that the wolf was lying in it. (「赤ずきん」)
- (18)'中：猎人走 / 跑 / 冲进屋，来到床前时却发现躺在那里的竟是狼。
- (19) 中：这长着灰毛的家伙围着房子转了两三圈，最后跳上屋顶（後略）。
 日：すると悪い狼は何度も何度も家の回りを忍び歩き、とうとう最後に屋根に跳び上がりました。
 英：so the grey-beard stole twice or thrice round the house, and at last jumped on the roof (後略). (「赤ずきん」)
- (19)'中：这长着灰毛的家伙围着房子转了两三圈，最后上了屋顶。

英語では、“up、down、in、out、back、across”などの不変化詞や前置詞は、移動の経路を表現するという点において中国語の基本スキーマ経路動詞と似ているが、単独で主体移動動詞として使用することなく、一般に移動の様態動詞と組み合わせて用いられるため、その文法機能が中国語の基本スキーマ経路動詞と質的に異なる。経路の概念を包入した移動動詞として、“ascend (上る)、rise (昇る)、descend (下る)、drop (落ちる)”などの上下移動を表す移動動詞¹⁰が挙げられるが、それも前述の“fall (落ちる)”と同じように、それぞれ不変化詞“up”または“down”とともに用いることがあり、中国語の基本スキーマ経路動詞“上 (上がる／上る)、下 (下がる／降りる)”とは異なる。

日本語の主体移動表現の基本パターンは、移動の経路の方向性と経路位置関係を動詞に包入するものである (田中・松本1997: 141-142)。次のように、方向性を包入した移動動詞には単純語も複合語もある。

経路を表す日本語の単純語：

行く、来る、登る、下る、上がる、下がる、降りる、落ちる、沈む、戻る、帰る、進む、超える、渡る、通る、過ぎる、抜ける、横切る、曲がる、くぐる、回る、巡る、寄る、入る、出る、至る、着く、去る、離れる など (田中・松本1997: 141より)

経路を表す日本語の複合語：

駆け上がる、這い上がる、舞い上がる、跳ね上がる、駆け下りる、飛び降りる、滑り降りる、舞い降りる、滑り落ちる、転がり落ちる、流れ落ちる、

舞い落ちる、駆け戻る、舞い戻る、這い出る、流れ出る、駆け込む、飛び込む、流れ込む など (田中・松本1997: 145より)

下から上への移動は、現実には自らの力で移動することが普通なので、確かに日本語においても「上がる／登る」は自律的主体移動しか表さないかもしれないが、上から下への移動を表す動詞では、単純語の「降りる」は自律的主体移動、「落ちる」は非自律的主体移動(用例(20)参照)を表すというように使い分けている。〈内外〉方向の移動や〈元にもドル〉ことを表す動詞では、単純語の「出る」「入る」「帰る」「戻る」「渡る」は自律的主体移動と非自律的主体移動のいずれも表すことができる(用例(21)～(25)参照)という点では、英語の“in, out, back, across”と似ているが、中国語の基本スキーマ経路動詞と異なる。複合語の後項動詞として使われるものには「上がる」「降りる」「落ちる」「出る」「戻る」などがあるが、それは前項動詞との結合に制限があり、中国語の基本スキーマ経路動詞のように他の動詞と自由に組み合わせることはできない。

- (20) a. 健二は台の上から地面に降りた。(『日本語基本動詞用法辞典』p .108)
 b. 飛行機が海に落ちた。(同上 p .97)
- (21) a. ライオンがおりから出た。(同上 p .345)
 b. なくしたと思った財布が出てきた。(同上 p .345)
- (22) a. 猫が窓から部屋に入った。(同上 p .411)
 b. かばんの中に書類が入っている。(同上 p .411)
- (23) a. 家族がアフリカから日本に帰る。(同上 p .117)
 b. 盗まれた宝石が持ち主に返った。(同上 p .117)
- (24) a. 父は6時ごろ家に戻った。(同上 p .511)
 b. 盗まれた絵が美術館に戻った。(同上 p .511)
- (25) a. 老人が大通りを渡っている。(同上 p .560)
 b. タバコはアメリカからヨーロッパに渡った。(同上 p .560)

3.2 客体移動の経路表現

本節では、客体移動事象を見てみたい。客体移動の経路を「経路動詞のみ」で表現するか、それとも「使役手段動詞+経路動詞」で表現するかという観点から分類すると、表4のようになる。

表4：客体移動事象における経路の表現方法と語例

表現方法 言語	使役手段+経路		経路のみ	
	使役手段+直示	使役手段+非直示	直示	非直示
中国語	搬来、带来、送来、 捡起来、捞上来… (計10例)	伸出、取出、吞进、 倒进、操起、抱到、 抛向… (計16例)	なし	なし
日本語	取ってくる、持って くる、連れていく… (計7例)	突き出す、拾い上げ る、飲み込む、連れ て上がる… (計6例)	なし	あげる、下げる、 よせる、開ける、 出す… (計10例)
英語	なし	pick up, put into, put out, carry in… (計16例)	fetch, bring (計3例)	raise, lift (計2例)

表4から次のようなことが分かる。まず、中国語では、Christine LAMARRE (2017:97) でも指摘されているように、経路動詞のみで客体移動事象を表すという表現方法は存在していない。これは、客体移動事象は「使役手段動詞+基本スキーマ経路動詞」という形式で表現され、基本スキーマ経路動詞のみでは主体移動事象しか表せないためであり、これは非自律的主体移動の表現形式にも見られる現象である。この点において、中国語は日本語・英語と異なる。そして、日本語と英語の違いについては、田中・松本(1997)が指摘している通り、英語では「使役手段動詞+経路動詞」という表現形式が一般的であるのに対して、日本語には移動の経路概念を包入した動詞が数多く存在する。ただし、日本語には英語“bring”のような直示の方向性を包入した使役手段動詞がない(同 p.170)。¹¹具体的に言えば、次の用例(26)と用例(27)のように、中国語と英語では、“倒进/carry...to…”“抱到/lift... upon…”といった「使役手段+経路」の表現形式が使われているのに対して、日本語では「入れる」「あげる」といった経路動詞のみが使われている。

(26) 中：小红帽，把桶拿来。我昨天做了一些香肠，提些煮香肠的水去倒进石头槽里。

日：赤ずきんちゃん、水おけを取っておいで。きのうゆでたソーセージのお湯がまだあるから、そのお湯を石の槽に入れておくれ。

英：Take the pail, Red-Cap; I made some sausages yesterday, so carry the water in which I boiled them to the trough. (「赤ずきん」)

(27) 中：青蛙蹦蹦跳跳地进了门，然后跟着小公主来到座位前，接着大声叫道：“把我抱到你身旁呀！”

日：かえるは、ぴょんと中へ入ってくると、お姫さまのあとをペタペタついてきて、椅子のところまでやってきました。お姫さまが椅子にすわると、かえるは大きな声で「わたしをあなたの隣の椅子にあげてくださいと言いました。

英：(前略) till he came up close to the table where the princess sat. ‘Pray lift me upon chair,’ said he to the princess, ‘and let me sit next to you.’ (「かえるの王さま」)

客体移動事象における直示移動動詞の使用について、松本 (2017b;2017c) では、継続操作型の客体移動では直示を表す動詞の使用が限られていると指摘されている。継続操作型の客体移動とは、物体を手で動かすことや、手を上げるなど身体部位を動かす移動事象のことである (松本2017c:263)。次の用例 (28) のように、中日英三ヵ国語は、ケーキを持ってくることを表現する場合に、直示移動動詞を用いることができるという点で共通している。しかし、松本 (2017b ; 2017c) が述べた継続操作型の場合になると、中国語は日本語・英語と異なるようになる。例えば、用例 (29) と用例 (30) に示すように、目を上げることもまたは地面にあるものを拾い上げることを表現する際には、日本語と英語では直示移動動詞を用いにくいかわりに、中国語では直示移動動詞“来”を用いることができるのである。

(28) 中：不一会儿，狼真的一面敲着门一面叫道：“奶奶，快开门呀。我是小红帽，给你送蛋糕来了。”

日：それからすこしして、狼が扉をたたいて、大きな声で言いました。「開けてちょうだい、おばあさん、赤ずきんよ。おばあさんにやき菓子を持ってきたわ。

英：Soon afterwards the wolf knocked, and cried: ‘Open the door, grandmother, I am Little Red-Cap, and am bringing you some cakes.’ (「赤ずきん」)

(29) 中：小红帽抬起头来，看到阳光在树木间来回跳荡，美丽的鲜花在四周开放。

日：赤ずきんは目を上げて、お日さまが木々の間から差し込むのを見ました。きれいな花がたくさん咲いているのを見ました。

英：Little Red-Cap raised her eyes, and when she saw the sunbeams dancing here and there through the trees, and pretty flowers growing everywhere (後略)。(「赤ずきん」)

(30) 中：小公主重又见到了自己心爱的玩具，心里别提有多高兴了。她把金球拣了起来，撒腿就跑。

日：お姫さまはまりがもどってきたのを見て、そっちのほうへ大急ぎで走っていき、拾い上げました。

英：As soon as the young princess saw her ball, she ran to pick it up;
(「かえるの王さま」)

4 おわりに

本稿は、中・日・英三カ国語の移動表現を主体移動と客体移動に分けて考察し、三カ国語の共通点と相違点について次のような点が解明できた。

まず、中・日・英のどちらにも典型的様態動詞と経路動詞が存在し、主体移動表現では、様態と経路を組み合わせて移動事象を表現することができるだけでなく、経路表現のみで用いられることもある。しかし、客体移動表現では、日本語と英語では、経路表現のみで客体移動を表現することができるが、中国語ではそれができない。それは、中国語の基本スキーマ経路を表す移動動詞は、自律的主体移動しか表すことができないためである。

そして、同じ移動事象を表現するにもかかわらず、中国語では「様態+経路」で表現する頻度が多く、経路のみで表現するのが少ないのに対し、日本語では「経路のみ」で表現する頻度が多く、「様態+経路」で表現するのが少ないのである。英語では、直示移動動詞“go, come”を除けば、「様態+経路」で移動事象を表現する比率が圧倒的に多い。そのため、Talmy が指摘しているように、中国語と英語は付随要素枠付け言語、日本語は動詞枠付け言語と位置付けるのが妥当であると思われる。ただし、中国語では、自力で発生した移動かどうか重要な概念要素であり、この点においては中国語は英語と異なると考えられる。また、継続操作型の客体移動の場合、日本語と中国語では直示を表す動詞の使用が限られているが、中国語では直示移動動詞“来”を用いることができる。

本稿は、三カ国語の具体的な共通点と相違点を明らかにしたものであり、移動表現の類型論的研究に貢献できたと確信している。今回収集した用例があまり多くないため、まだ見えてこないものがあるが、今後さらに用例を増

やし移動表現の研究を深めていきたい。

参考文献

- Christine LAMARRE (2017)「中国語の移動表現」松本曜 (編)『移動表現の類型論』くろしお出版, pp.95-128.
- Slobin, Dan I.(2004)The many ways to search for a frog. Relating events in narrative, Vol. 2: Typological and contextual perspectives, ed. by Sven Sörmqvist and Ludo Verhoyen, pp.219-257. New Jersey/London: Laurence Erlbaum Associates.
- Talmy, Leonard(1985)Lexicalization Patterns: Semantic Structure in Lexical Forms. In: Shopen, T. (Ed.), Language Typology and Syntactic Description: Grammatical Categories and the Lexicon. Cambridge: Cambridge University Press, pp.57-149.
- Talmy, Leonard(1991)Path to realization: A typology of event conflation. BLS 17:480-519.
- Talmy, Leonard(2000)Toward a cognitive semantics vol.2:Typology and process in concept structuring. Cambridge. MA: MIT Press.
- 范立珂 (2016)「位移事件表达中各概念的组合方式研究」『海南师范大学学报(社会科学版)』29(3), pp.130-138.
- 范 娜 (2014)「汉英指示路径虚拟位移对比研究」《西安外国语大学学报》(1), pp.15-19.
- 阚哲华 (2010)「汉语位移事件词汇化的语言类型探究」『当代语言学』(2), pp.126- 135.
- 刘月华 (1998)『趋向补语通释』北京语言大学出版社.
- 骆 荣 (2018)「英汉特殊空间移动构式“路径”表达的认知对比研究」《西安外国语大学学报》(2), pp.1-5.
- 沈家煊 (2003)「现代汉语“动补结构”的类型学考察」『世界汉语教学』(3), pp.17-23.
- 吴建伟·潘燕燕 (2017)「英、汉、日运动事件动词的句法—语义比较研究」《外语研究》(2), pp.57-62.
- 杨京鹏·吴红云 (2017)「空间界态的句法语义接口研究—以运动事件的英汉词汇化模式对比为例」《外语学刊》(4), pp.45-50.
- 曾传禄 (2009)「汉语位移事件的类型和性质」『喀什师范学院学报』(4), pp.48-51.
- 岡田幸彦 (2009)「現代日本語の移動動詞と場所名詞の格」『日本アジア研究』(6), pp.39-61.
- 小原真子 (2007)「移動表現の日英比較—小説とその翻訳を題材に—」『神戸言語学論叢』(5), pp.161-174.
- 国立国語研究所 (1972)『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版.
- 田中茂範·松本曜 (1997)『空間と移動の表現』研究社.
- 松本曜 (2017a)「移動表現の類型に関する課題」松本曜 (編)『移動表現の類型論』くろしお出版, pp.1-24.
- (2017b)「英語における移動事象表現のタイプと経路表現」松本曜 (編)『移動

表現の類型論』くろしお出版, pp.25-38.

—— (2017c)「日本語における移動事象表現のタイプと経路表現」松本曜 (編)『移動表現の類型論』くろしお出版, pp.247-273.

三宅知宏 (1996)「日本語の移動動詞の対格標示について」『言語研究』 pp.143-168.

吉成祐子・眞野美穂・江口清子・松本曜 (2021)『移動表現の類型論と第二言語習得—日本語・英語・ハンガリー語学習の多元的比較』くろしお出版.

辞書類

小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹 (1989)『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店.

A S Hornby (著), 赵翠莲・邹晓玲等 (译)(2017)《牛津高阶英汉双解词典》(第8版) 商务印书馆.

用例出典

『Collins Classics-Grimms's Fairy Tales』Brothers Collins (著), London:William Collins, 2017年出版.

《格林童话全集》伍心铭 (编译), 北京:北京工业大学出版社, 2010年出版.

『初版グリム童話集』吉原素子・吉原高志 (訳), 東京:白水社, 1997年出版.

注

¹ 本研究は中国教育部中外言語交流協力センター「2022年国際中文教育研究課題項目」の助成を受けたものです。<本研究得到教育部中外語言交流合作中心2022年国際中文教育研究課題項目資助 (批准号: 22YH70D)。>

² 「*」は、その例が不自然な表現であることを示す。

³ 田中・松本 (1997: 136) では、“climb” も方向性を包入する移動動詞として挙げられているが、本稿では、それを様態動詞とする。

⁴ 日本語の漢語である「落下」は、「落」+「下」のように、下方向と下方向の組み合わせパターンがあるが、和語にはこのようなパターンがない。もちろん、「落ちる」は、ダイクシス動詞「行く/来る」と共起することができる。例えば、「お姫さまは金の玉を取り出して、それを高く投げあげては、落ちてくるのをつかまえて、遊ぶのでした。」のように使われる。

⁵ 表中の語例数は異なり語数である。以下同。

⁶ “简单表达式 (単純な表現形式)” とはどのような表現形式であるか、曾传禄 (2009) では明らかにされていない。

⁷ 例えば、木の葉が落ちるなどのような主体移動は、引力で起こった移動事象であり、自力で移動することではないため、非自律的主体移動事象である。

⁸ 表3は Christine LAMARRE (2017:104—105) に基づいて作成。一部改変。Christine LAMARR (2017) では、〈上下〉〈出入り〉〈元へモデル〉〈ワタル〉、そして直示移動の〈イク／クル〉を基本スキーマ経路動詞としており、着点“到”がその中に含まれていない。しかし、刘月华 (1998) によれば、着点“到”の文法機能は“上、下、進、出、回、過、起”と同じであるため、本稿では、着点“到”も基本スキーマ経路動詞とする。なお、Christine LAMARRE (2017) 自身でも、着点“到”の文法機能は基本スキーマ経路動詞と同様であると考えている (同 p.111)。

⁹ この分類に使用した語例は本稿で収集した語例だけでなく、Christine LAMARRE (2017: 115—116) や范立珂 (2016) も参考にした。

¹⁰ 田中・松本 (1997: 136) 参照。

¹¹ 英語には“bring ... to ...”があるが、今回収集した用例にはなかった。これについて、今後用例を増やしてさらに研究を進めたい。